

知・技の創造 ものづくり大学発

▷54◁

2016(平成28)年3月、災の教訓をあらためて見直す4日に掲載された前回コラム「プロジェクトを開始した。毎では、ものづくりの大学に着任して長谷川研究室を立ち上げ、誰でも簡単に実験できる体験型防災学習教材の開発について紹介させていた。ここでは、このプロジェクトの取組み事例について紹介させていた。

■旧大川小学校
石巻市の旧大川小学校は北各種イベントに活用されている。このような活動は現在も継続しているが、これに加え「3・11を学びに変える」をテーマに、東日本大震

化の過程で議論を呼んだこと、できる場所でありながら、避からず存知の方も多いため、難せず校庭に待機した理由は、この悲話には検証すべき、何であるのか?校庭には津波課題が多く含まれている。ま、避難に最適な真山が隣接して、地震発生から津波襲来ま

長谷川 正幸 建設学科教授

3・11を学びに変える



はせがわ・まさゆき 日本大学大学院理工学研究科建築学専攻修士課程修了。工学博士。防災土。清水建設株式会社大崎研究室を経て、2013年4月から現職。専門は地震工学、耐震工学。長谷川研究室HP (http://www.iolac.jp/building/hasegawa/)。

で約1時間の猶予がありながら、なせ多くの犠牲者を生んだのであろうか?北上川を溯が深く刻まれなければならぬ。上する津波の勢いを随時確認し、

れ、ラグビーワールドカップ生ずることである。典型的な(W杯)が開催された場所として、例が1960年チリ地震津波でも記憶に新しいことである。日本の裏側のチリ近う。さて、この出来事の背景に海で発生したマグニチュードは東京大学教授・片田敏孝先 M W 9.5 の世界最大規模の生というキーパーソンがおられた。片田先生は、①想定にへ大津波をもたらした。死者・とらわれるな②状況下で最善行方不明者約150人の惨事を尽くせ③率先避難者になれた。このため、三陸地一「避難三原則」を防災教育に取り入れた。われわれも表される堅固な防潮堤を築く現地に赴いて避難の軌跡を検(こと)で町を守ってきた。と証してみた。釜石の出来事は、3・11ではこれが災い決して奇跡ではなく、防災教育の成果である。防災教育の必要性をあらためて認識したことが最大の教訓と言える。%にあたる約200人が、防

■世界に誇る田老の防潮堤 防潮堤の崩壊によって犠牲とな三陸地方における津波被害だった。防潮堤の崩壊はハードの特徴は、地震の揺れは小さな対策をソフトな施策で補つても波高の高い津波によつこの重要性を示唆している。居復興スタジアムが建設されて、同所的に甚大な被害が発る。